

参加会議：国際標準化機構(ISO)/船舶海洋技術専門委員会(TC8)/船橋配置分科委員会（SC5） ストックホルム会議	
会議期間：平成17年6月13日～15日	
会議場所：スウェーデン、ストックホルム、Swedish Maritime Safety Inspectorate: Stockholm Branch	
参加者 福戸淳司（高度運航システム 研究グループ長）  会議場 	主な貢献 船橋配置に関する国際規格の作成 船橋配置に関する国際規格に関しては、過去ロンドンおよび東京で会議を重ねて、9章の内、7章途中まで規格草稿の作成が済んでいた。今回の会議では、残りの2章である、船橋配置に関するFMEA (FAILURE MODE AND EFFECTS ANALYSIS: 故障モード・影響解析)、取扱説明書および、高速船の船橋配置について、審議した。また、これに続いて、今まで各国から出てきた各種コメントを考慮した規格全体の見直しを行って、規格草案の最終案を作成した。この際、日本からは、「着席状態のみではなく、立位での操船を考慮した規格の修正」、「統合操船システムを用いない船橋の考慮」、「窓枠のサイズの制限に関する問題点の指摘」および「FMEAに対する考え方」について、コメントがなされており、これについて、日本代表として意見表明をして、この内容を規格に反映させることに貢献した。 現在、船橋配置の中に設置されるINS（Integrated Navigation System：統合操船システム）の検討が、IMOでなされており、今後、この規格へも、その影響を与えると思われるので、今後も継続的に情報収集と働きかけが必要と思われる。 なお、今後、この規格案は、関係国に配布され、コメントおよび賛否の投票を受けた後、正式な国際規格として制定される予定である。